

<令和7年度日本水産学会春季大会 ミニシンポジウム>

内水面漁協が元気になるためには

日時・場所：令和7年3月26日（水） 13:00-16:00 第7会場

企画責任者：中村智幸（水産機構技術研）

13:00-13:10	開会の挨拶・企画の趣旨説明	中村智幸（水産機構技術研）
		座長：中村智幸（水産機構技術研）
13:10-13:30	内水面漁協の役割	生駒 潔（水産庁栽培養殖課内水面漁業振興室）
13:30-13:50	内水面漁協の現状と課題（1）	木岡 恵（奥多摩漁業協同組合）
13:50-14:10	内水面漁協の現状と課題（2）	中島淳志（両毛漁業協同組合）
14:10-14:30	内水面漁協の全国的な課題	中奥龍也（全国内水面漁業協同組合連合会）
14:30-14:40	休憩	
14:40-15:10	内水面漁協が抱える課題の対応策	中村智幸（水産機構技術研）
15:10-15:50	総合討論	
15:50-16:00	閉会の挨拶	中村智幸（水産機構技術研）

企画の趣旨

内水面の水産資源の増殖や漁場の管理は、欧米諸国では国や州等の公的機関により行われているが、日本では漁業協同組合（漁協）により行われている。漁業法の規定により、都道府県知事や農林水産大臣は内水面漁協に免許した漁業権（第五種共同漁業権）を取り消さなければならない場合があるが、一般に漁協に対して指導や監督を行うのにとどまる。このように、日本の内水面の水産資源や漁場に対する漁協の権限は大きい。

日本の内水面漁協は本来機能である内水面漁業の振興だけでなく、遊漁の管理や河川湖沼の環境保全、河川湖沼やそこに生息する水生生物に関する啓発活動等の内水面漁業の多面的機能の発揮を担っている。

日本の内水面漁協の課題としてこれまでよく挙げられてきたのは、増殖技術の開発や高度化、漁場の環境改善、外来魚やカワウの駆除、魚病対策等である。しかし、内水面漁協にはこれらの他に、組合員の減少や高齢化、収入の減少といった組合の組織や運営に関するいわば内的な課題があり、それらについての研究は最近ようやく行われるようになったが、まだ広くは知られていない。

そこで本シンポジウムでは、内水面漁協の内的な課題を共有するとともに、内水面の漁業、遊漁、水産資源、漁場環境の管理者であり、多面的機能の発揮者である漁協の活動が活性化し、その恩恵を国民が今後も享受できるようにするため、内水面漁協の組織・運営の改善策について議論する。